

令和4年度伊達市経営に関する説明会
市長あいさつ（～今年度の経営方針について～） 要旨

日頃より伊達市の経営に関してご支援、ご協力いただいていることを心から感謝しております。また、市民と行政の橋渡しという重要な役割を担っていただき、数々の助言をいただいていることにも感謝を申し上げます。

本日は各地域の代表が集まっているということもあり、令和4年度のまちづくりについてお話させていただきたいと思います。先ほど司会からもあった通り手元の資料に基づいて説明したいと思います。説明資料については詳細が記されているため、後程確認願います。

まず、まちづくりの基本方針・重点施策として、持続的に伊達市が発展するために若い人たちが定住するための施策をしっかりと考えていく必要があります。若者が定住することで地域に希望と活力が生まれ、それにより高齢者も含めたすべての世代が元気になってくると考えます。若者が定住するためには、何といたっても働く場所をしっかりと確保する、それから子育て教育を充実させる、そして楽しむ場所の確保、健康や福祉の充実といった各種施策を進めながら移住・定住を進めることが必要だと考えています。そのため、伊達市におきましては5つの柱「安全・安心なまち」「農林業・商工業・観光のまち」「子育て・教育のまち」「健康・福祉のまち」「移住・定住推進のまち」をしっかりと進めていきます。

■安全・安心なまち

まちづくりに必要なことは、安心して暮らせることであり、感染症・新型コロナウイルス対策をしっかりと行う必要があります。一昨年の11月に1例目の感染が確認されてから現在までで930例目まで確認しており、昨年までは40代以上の方の感染が多く、7割が40歳以上でありました。高齢者になるにつれて重症化率が高くなる背景でもありました。今年になりそれが逆転し若い世代の感染者数が増加しています。30代未満の感染者数が7割、その中でも10歳未満の感染者数が5割となっていて、若い世代の感染が広がっています。若い世代は重症化せず無症状の方もいますが、子どもたちが家庭内での感染源となり家族全体が感染するといったことがあります。高齢者に感染し重症化するといったことを防ぐためにワクチン接種が必要ですが、ワクチン接種率は高齢者の90%が接種しており、伊達市においては、高齢者は重症化していない状況です。ただワクチンもいつまでも効果があるというわけではないため、感染し重症化するという確率も出てきます。そのため、若い世代に感染しないよう対策をすること、若い世代のワクチン接種を進めていくことが重要と考えています。4月になってすべての世代に均等に感染が拡大していることから家庭内での感染が進んでいると思われるため、ワクチン接種はしっかり進めてまいります。

令和元年の東日本台風では伊達市の被害は甚大で梁川町を大きな浸水被害があったほ

か、多くの住宅が浸水しました。今現在東根川の下流側の阿武隈川合流地点に遊水地の整備を県が進めています。現在の50万トンから、倍の100万トンの遊水地にしていくことが県の計画です。浸水した場合に関して、浸水時に機動的に動けるように市では排水ポンプ車を今年2台導入しました。この排水ポンプ車は25メートルのプールを10分間で排水可能です。機動的に動けるために、市職員が訓練・操作を行っています。

地震については、今年の地震は昨年2月の地震、11年前の東日本大震災より揺れが大きく感じたと考えております。被災した住宅は罹災証明の申請がすでに3,000件を超えています。昨年の地震では約2,000件の申請であったことからすでに1.5倍の数であり、未だ申請されていない世帯もあることから申請数は増えると思われます。全壊の家屋については5棟、大規模半壊も5棟確認しています。昨年の地震の際は0件であったことから、今回の揺れがいかに大きかったのかがわかります。

住宅だけでなく公共施設にも大きな被害が出ています。伊達橋は大きくずれが生じており、東西40センチ、南北20センチのずれをどのように改修するか国から調査に来てもらい、復旧する際にも国の直轄権限代行という制度により、国で改修を行ってもらうことになります。いつ通行できるかは明確になっていませんが、国の調査を待ち、今の部材を活かせるのか、新しい橋に架け替える必要があるのか判明次第、工期が決定されます。すぐに通行可能になるわけではないため、現在、迂回の措置をしています。大正橋に迂回する際に混雑が見られ、福島市の月ノ輪大橋に関しても迂回する方がいます。交通渋滞の対策については県と国土交通省、福島交通、警察署、消防署間で協議会をつくり、スムーズに緊急車両が通行できる方法を協議しています。今後も、国、県、警察にしっかり交通渋滞解消に向けて話をしていきたいと思っています。

■農林業・商工業・観光のまち

農林業に関しては、まずは若者が定住するよう働ける場所をしっかりと確保するためにも、伊達市は農林業が主産業であることから農業の振興をし、新規就農者を確保していく必要があります。桃、きゅうり、あんぽ柿、いちごといった作物を今までと同じ体制ではやれないと思います。子が継ぐだけでなく、若者が職業として参入する際の対応をどうするか、土地も機械もない人たちのリスクを少しでも低減することが重要と考えています。一昨年から新規就農者への資材、土地の購入、生活費の支援といったことをしています。今年は、遊休農地を活用し、そこで新規就農者向けの研修をしてもらうような施策も考えております。

東日本大震災以降、イノシシが増え、鳥獣害対策を進める必要もあります。防護柵、罠の予算を増額しています。最近ではニホンザルによる被害も増えていることから、ニホンザルの生態調査を進めていきたいと思っています。

伊達市の農作物を広めるため、北海道、東京、仙台などでトップセールスを行ってきました。最近はコロナ禍によりリモートばかりでしたが、市場・消費者とのつながりができなかったため、今年は現地に行きたいと思っています。

商工業に関しては、相馬福島道路が開通したことで交流の幅が広くなり、人と物の流れがどんどん進んでいくと思われます。新工業団地では増設を進めており、今年度中に完成し、来年度からは新しい工場が立地していきます。現在、先行販売でいろいろな企業から興味を示していただいています。二期販売は5月以降に進めていきます。大型商業施設は令和6年12月以降に開店予定であり、あと2年半のうちに従業員募集を始めていくと思われます。約3,000人の雇用があり、伊達市の雇用に大きな役割を果たしてもらえと思っています。イオンモールには年間1500万人のお客様が来店予定で、伊達市民も含みますが一日にすると約5万人が伊達市に来るという計算になります。お客様がイオンモールだけでなく、伊達市を周遊・観光してもらえるか考えることも必要です。伊達市が中心となり、近隣市町村と協議会をつくり、どうしたら広域的に観光ルート、商品開発ができるか話しています。霊山を含めた千本桜、高子沼などの観光地にどうしたら来てもらえるか商工会とも検討を進めていきます。

観光に関しては、伊達氏発祥の地という深い歴史、赤坂森林公園や千本桜、高子沼を観光地として整備していきたいと思っています。森林公園はバンガロー、キャンプ場だけでなく、観光客がくつろげるように今年は森林公園内をきれいにする環境づくりに取り組みたいと思っています。コロナ禍でアウトドア趣向ということもあり、自然に親しむ公園を目指していきたいと考えています。

■子育て・教育のまち

子育てに関しては、若者が定住するための条件にもなっています。認定こども園については保原認定こども園、高子北認定こども園が資材高騰により残念ながら事業者側から辞退ということになってしまいました。保原については新たな事業者が応募しており、高子北に関してはこれから募集を行います。期待されていた保護者、お子さんには大変申し訳ありませんが、いち早く開業していきたいと考えております。

教育に関しては、これからの時代に合った教育として、デジタル教育を進めていきたいとも考えております。子ども一人一人にタブレットを渡し、スマホではなくキーボードで物をつくるということを学びます。タブレットだと下ばかり見て先生を見ることがなくなってしまうため、黒板代わりに大型掲示板（大型のテレビ）を各教室に配置するよう進めています。また、ロボット教育も優れており、「伊達リビングロボット」にて作られたメカトロウィーゴという小さなロボットがプログラムを組むことによって、子どもたちが自分のタブレットから命令を出すと動き、子どもたちが興味を持ってプログラムに慣れ親しんでおります。こういった教育も伊達市独自のもので、これからも充実していけたらと思っています。

■健康・福祉のまち

健康福祉に関しては、おかげさまで皆さまに元気づくり会に参加していただいております。120の集会所、団体で実施していましたが、コロナ禍で中止となりました。皆さま

からの熱意で再開し現在は130に数が伸びております。身近な場所で健康づくりをすることが、自分の健康と、人とのコミュニケーションという面で非常に重要と考えており、市としてもしっかり取り組みを進めていきます。県内では伊達市と大玉村だけが行っている取り組みで、今後も充実していけたらと思っております。また、今年の5月7日に総合型地域スポーツクラブを立ち上げます。伊達市全体でスポーツをしていこうといったものです。学校でのクラブ活動は、子どもたちが少なくなっていることで中々できなくなっている状況になっています。団体競技をすることでコミュニケーションの形成、うれしい、悲しいといった感情が育まれるため、子どもたちを中心に体験してもらい、スポーツに馴染んでもらうといったことを考えております。また、高齢者に重要なことは地域の中でいかに活動できるかということであるため、高齢になって免許証返納し足がなくなってしまうことが心身の健康に一番悪いと思われます。デマンド交通を充実させることが大きな課題と考えています。デマンド交通については運営団体が分かれている、旅費が統一されていないといった課題を解決するために運営団体を統一できないか検討しています。

これまで話した「安全・安心なまち」「農林業商工業観光のまち」「子育て教育のまち」「健康・福祉のまち」の施策を進め移住・定住を進めていくことが重要と考えております。

伊達市におきましては、水害、コロナ、人口減少といった課題がたくさんありますが、一つ一つ解決しながら住みやすい・住んでみたいまちにしていきたいと思いますので行政推進員の皆様のご協力をお願いしまして説明を含めた挨拶とさせていただきます。